

「帰村」固い決意

川内村長 遠藤雄幸



守るものあったから前向きに

■川内村 東日本大震災、東京電力福島第1原発事故による全村避難を経て、遠藤雄幸村長が2012（平成24）年1月31日に帰村を宣言した。20年9月1日現在の避難者を含めた住民登録は2543人で村内に戻ったのは2053人。帰還率は80.73%。震災時の人口は3038人だったが、避難先に住民票を移す動きなどにより495人減った。65歳以上は1090

人と4割を超え、若い世代の帰還促進が課題となっている。村は震災後に初めて工業団地を整備、働く場を確保するため企業誘致を推進する。現在1社が操業、21年には2社が進出する予定。新しい農業と産業の構築に向け、ワインや生食用のブドウの生産も進めている。双葉郡8町村で震災当時から首長を務めているのは遠藤村長のみ。

「戻れる人は戻る。心配な人はもう少し様子を見てから戻りましょう」。川内村長の遠藤雄幸は2012（平成24）年1月31日、福島県庁の県政記者クラブで報道陣が構えたカメラのフラッシュを浴びながら、避難先からの「帰村」を宣言した。11年3月の東京電力福島第一原発事故で役場機能ごと避難した9自治体のうち初の「帰還宣言」だった…。

全文は単行本「証言 あの時」に掲載

